

8月3日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（創世記 第1章 1節）

聖書の最初に神が天地を創造されたと明確に宣言があることは、聖書を読む者に大きな恵みと想う。ローマ人への手紙第1章20節によれば、被造物は全て神の永遠の力と神性を知っており、日本も含めて全ての国々の文化に神は何か指紋を残してくださったはずだと思う。私は古事記の序と上巻の最初に名前のある天之御中主神が、古事記執筆の頃の日本に示された創造主たる神だろうと思う。しかし古事記には「神が天地を創造された」という明確な宣言がない。天も地も自分も神が創造してくださったと明確に知り、自分は今のままで愛され受け入れられているが、不完全な自分のままで良いわけではない、と知るときに、自分を新創造してくださる方に出会うことができる。

8月6日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（ピリピ人への手紙 第2章 5節）

十字架の上で身動きできない不自由な主イエスを想う。獄中で不自由な身のパウロのうちに生きておられた主イエスを想う。キリスト・イエスのみことばにとどまることによって、ほんとうにイエスの弟子であったパウロが真理を知り、真理がパウロを本当の意味で自由にしていたことを想う。どうか私たちが本当のイエスの弟子でありつづけ、主の愛で愛し合い、特に家族が愛しあう愛を見て周りの人たちも主の恵みを知るようになりますように。すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、無条件の愛である父なる神がほめたたえられますように。

まさお